

狩猟デビュー 初田ハチくん

丹波のけもの道



太い四肢、たくましい筋肉の猟犬になりました



山梨県北都留郡丹波山村で地域おこし協力隊員として活動し、猟師としても活動する初田登さん（協力隊3年目）が飼う猟犬「ハチ」（雄、9カ月）が、今季の猟期に入り、狩りに初参加しました。ハチは紀州犬とビーグルのミックスで、村内の有害鳥獣対策を担う猟隊の新しい戦力として期待が寄せられています。

ハチは今年6月、生後4カ月で初田さんの元へやってきました。初田さんは村に来てから狩猟免許などを取得し、猟師3年目を迎えますが、犬を飼うのは初めての経験でした。ハチという名は、師匠が飼っていた猟犬にちなんで名付けられました。

初田さんは当初、初めての犬の飼育に戸惑ったものの、試行錯誤を重ねてハチとの信頼関係を築いてきました。好奇心旺盛なハチは、朝夕の散歩で山に向かおうとするため、初田さんは1日8km近くを歩く日もあるそうです。ハチは匂いの追跡に優れるビーグルと、獲物を牽制する紀州犬の血を引いており、丹波山村の主な獲物である鹿やイノシシの猟に適しているとされています。



6月のハチ。まだ小さく幼い身体



初田さんとハチくん

猟犬ハチとの道

11月15日の初猟に参加したハチは、さっそく鹿を追出し、追跡する行動を見せました。初田さんは「山に放たれるまで心配でしたが、猟犬としての資質を持っているようです」と安堵と手応えを感じました。

私は、丹波山村での暮らしと、猟犬ハチとの日々を通じて、この場所で生き抜くことの意味を日々学んでいます。山を歩く技術も、犬を扱う経験も、まだまだ諸先輩方の足元にも及びません。しかし、この地で得られる経験こそが、私の人生の財産になると信じています。私に欠けている、これらの貴重な経験を少しでも多く得るには、愛犬ハチと共に山へ出猟し続ける以外に道はないと強く感じています。

村の廃棄物が愛犬の元気の源に！
マイクロブリュワリーの麦芽粕をアップサイクル！

狽犬の素 プロジェクト

地域おこし協力隊3年目の初田 登さんが
取り組む地域資源のアップサイクルプ
ロジェクト、その名も「狽犬の素（り
ょうけんのもと）」の開発ストーリー
を紹介します。

きっかけは廃棄物

このプロジェクトのきっかけは、村内
のマイクロブリュワリー「ウルブスブ
リューイング」の園部さんからの依頼
でした。クラフトビールを作る際に発
生する麦芽粕を何かに活かさないか？
そんな相談から始まりました。栄養価
が高いにもかかわらず、そのほとんど
は廃棄されていました。



麦芽粕の栄養素

アミノ酸（筋肉形成）

食物繊維（整腸作用・被毛の艶）

ミネラル（丈夫な骨格形成）

炭水化物（エネルギー源）

栄養豊富な資源を、捨ててしまうのはもったいない！

初田さんはそう考えました。丹波山村では、狽犬はかけがえのない家族であり、村の狩
猟文化を支えるパートナーです。この麦芽粕を、愛する狽犬たちの健康を支える特別な
サプリメントに生まれ変わらせることはできないか？これが「狽犬の素」の原点です。



プロジェクトを推進する上で掲げたテーマは、「MADE
IN 丹波山村」。村内の設備と人々の知恵を結集し、製
造から加工、販売までを村内で完結させることです。

村の乾燥・加工技術を活用

製造工程で最も重要なのが「乾燥」です。麦芽粕は水分が
多いため、長期保存が可能な形にする必要があります。こ
の工程で、村内にある丹波山倶楽部の持つ舞茸乾燥設備を
活用させていただくことにしました。これにより、初期投
資を抑えつつ、品質の高い乾燥化を実現します。

狽犬の素が目指すもの

循環型社会の実現： 村の廃棄物を資源に変える、環境に優しい取り組みです。

愛犬の健康サポート： ビール粕に含まれる豊富な食物繊維、タンパク質、ビタミンB群などが、狽犬
の腸内環境と体力を強力にバックアップします。

地域ブランドの創出： 丹波山村の新しい特産品として、全国の愛犬家へ発信していきます。

現在は、犬用サプリメントを主軸に、試作品のテストとマーケティング戦略の構築を進めています。
この小さな村の挑戦が、全国の地域資源活用モデルとなる日を目指して、走り続けます！